2026/11/18　協定締結式資料

地域住民と共に日本の配送の未来を創る
～コミュニティ配送の検討～

豊岡市市長公室

コミュニティ配送のきっかけ

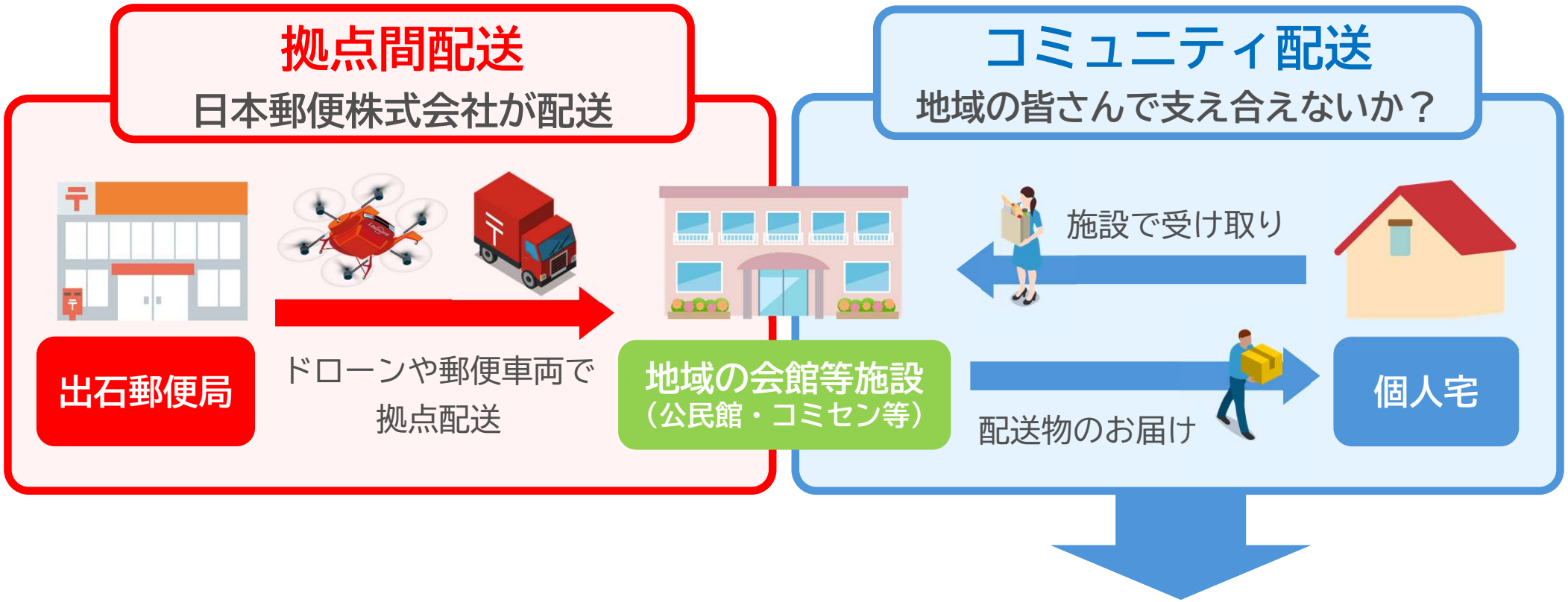
2023年但東区長協議会の要望

移住先や企業の移転先として但東地域を選んでいただくためには、５Ｇや高速インターネット網、公衆無線ＬＡＮ等の拡充が重要です。各通信事業者へ、更なる通信インフラ整備への働きかけを要望します。

また、近年**ドローンや自動運転など、新たなテクノロジーが急速に進展しています**。国の支援を受け、実証実験や利活用の促進に取り組んでいる近隣の市町もあります。**田舎であることを逆手にとって、人家が少ないからこそ可能な実証実験に参画するなど、未来に希望が持てる取り組みを要望します**。

日本郵便株式会社が豊岡市但東町で
ドローンによる拠点間配送の実証を開始（2023年12月から）

地域の中の配送はどうするべきか？



2024年度から地域の皆さんとのコミュニティ配送実証事業が開始

地域の交通と物流を支える仕組み

地域の課題

⑴ 人口減少・高齢化に伴う物流の担い手不足
⑵ 地域活動と移動手段を維持する運営基盤の確保

地域の人材・車両を活用し、旅客優先で配送を検証
コミュニティビジネスで支える地域づくり
「兵庫・豊岡モデル」

地域配送員が
各家庭へ届け
物流を支える

将来の収益を
地域活動と
移動手段の維持へ

目指すもの

- ✓ 地域住民：持続可能な地域づくりの推進（人的リソースの活用と独自財源の創出）
- ✓ 豊岡市　：住民の生活・サービスの維持、配送業務を通じたコミュニティ活性化
- ✓ 日本郵便：将来の中山間地域での集配ネットワークの持続可能性の確保
- ✓ 兵庫県　：上記を踏まえた“兵庫・豊岡モデル”の実現

コミュニティ配送の可能性

単に「荷物を届ける」だけではない可能性

① 「顔の見える関係」が生む安心感と新しい接点

② 地域の課題やニーズに合わせた柔軟な物流モデル

③ 地域住民による円滑な配送

④ 配送「プラスアルファ」の可能性（地域の見守り）

持続可能な地域を作る可能性

① 地域で稼いだ収入を地域課題の解決に活用

② 地域の新たな仕事と活動財源の創出を目指す

コミュニティ配送のスキーム

配送事業者（日本郵便等）

拠点間の荷物の配送を担当。



拠点施設（コミュニティーセンター）

資母まちづくり協議会職員が拠点施設に届いた**荷物の受取・登録・保管**を担当。



住民配送員（チクタク運転手）

拠点施設から受取人までの荷物の配送を担当。



アプリで、荷物の持ち出し、配達完了情報を管理。

受取人（住民）

原則対面にて受け取り。不在の場合は、事前に指定いただいた場所へ置き配を行う。



実証で確認すること

地域主体交通「チクタク」による貨客混載で、『人』と『荷物』をスムーズに目的地に届けることができるか

① 取扱個数、配送時間、旅客運行への影響

② 仕分け・登録・配達に要する時間、担い手の負担

③ 受取方法の使いやすさ、安心感、サービスに対する受容性

④ 荷物の保管・受渡し、事故時対応、配送管理システムの構築

⑤ AIによるルート作成の有効性の確認

（2024年度に続き HYOGO TECH ひょうごTECH イノベーションプロジェクト を活用 ）

今後の展望

実証結果を踏まえ、地域に合ったコミュニティ配送を検討

実証結果の整理

配送実績、運営負担、住民の意見を整理し、課題と改善点を共有

継続に向けた検討

担い手、費用負担、役割分担など、持続可能な運営条件を検討

将来の拡充

他の宅配事業者との連携も視野に、地域に合う配送の仕組みを検討